

月 每
行發日五廿 • 日 拾

入會其間併せて生徒製作品展覧會を開く。

川崎高女 新興都市川崎が大正十三年市制施行と共に産れ出て今年十週年を迎える同校、同窓會名簿を繰つてもまだ改姓した者が少い、流石に同校の若さを知れ。その間五十石、櫻井の兩校長を送つて開宮現校長である。

廿八日より三日間、記念式慰靈となつてゐる。

故美澤先生が兼任された、本校と共に濱の實業界に獻げた功績は非常に顯著である。それに模範實業補習學校として寧ろ全國的に有名であつたが、時運の進展と現中川校長の敏腕とが幸ひして昇格をみた記念祝典は十一月三日、夜は全校生徒の提灯行列を催し同校々庭をくり出して伊勢佐木町通―野毛坂―伊勢山大神宮に至り更に紅葉坂―本町通を繰つて歸校解散するこ

教育小觀

平塚市第一尋常小學校長

三
觜
三
郎

◎現下一般世相

國民は現下の非常時を果して非常時と感じて居るであらうか。

か穩當を欠く嫌はあるが茲に言ふ我等とは語脈の都合上用ひたので余一個の謂である。

雨後の筍のやうに出るがその
 何れもが殆ど申合せたやうに
 一致する所は戀のさゝやきが
 どの、月が招いたとか招か
 ぬとか全く齒のうくやうなこ
 とばかりである。それを又若い
 男女がよい事にして謡ひ狂ふ
 てゐる。どこに非常時がある
 のかと言つた調子である。さ

以下御諒恕を願ひ度い。
 扱て訓育問題であるが
 一、果して眞に日本國民たる
 の自覺を催すべく努力し
 て居るであらうか、否來
 たであらうか。
 二、國民教育と國際教育との
 觀念の上に果して明確な
 る限界を樹立して居るで
 あらうか。

うかと思へば所謂赤の思想は天を翔り地を縫ふて思ひのまゝに毒矢を研いでゐる。

從來健全階級として誇をなしてゐた農村の現状は如何。

經濟問題を中心として血みどろの苦闘を續けて居る、國際の動きと外交問題、これ又軍事問題と相俟つて危急存亡の岐路に立つて居る。

三、個人、家族、社會の各對照道德にして果して日本民族傳統の良俗美風の保有發展に寄與して居るであらうか。

四、何事にあれ經濟的事情を離れては考へ得られぬ現代に於て經濟觀念の涵養方面には缺くる所はないか、否なかつたであらうか。

如何に樂天家が如何に樂天性を恣にして、も斯る一般世相に直面しては、いやでも三顧四省の首をひねらずには居られまい。

◎初等教育界現

狀瞥見と自己反省

我々は教育者としてこの間に存在してゐる。我々の爲しつゝある我々の考へつゝあること、これ等が果して我々が教育者としての存在意義を有して居るであらうか。我々は現下一般世相を凝視しながら何とか考慮する所がなくともよいであらうか。

七、更には我等の言論であり分り切つたる事をは何を苦んでか小六づかしく表現せねばならなかつたのであらう。

八、それから研究と遊戲である。

更に進んで我々は日々の仕事の上にその考慮をば反映せしめないでもよいであらうか。夜靜かに過去の我が足跡を省みると、我等は果して教育者としての存在意義を有するものであらうか。我等は次の問題等に對して自問自答

我等は名を研究にかりて思想的にも研究的にも將又論策檢討にも一種の遊戲を爲して來たつたのではなからうか。嗚呼、我等は省みて恥かしい事が多い。

以上は我等の歩み來つた過

去の事象であり、謂はゞ我等自身の問題である。日暮れて途遠きの感あれど、希くば今後一層堅實の歩を進め度い。

難局に立ち殆ど死活の境に彷徨して居る。而も町村經費の大部分は教育費であり、教員凡そ人は物質的のみには生き給料費である。若しこの教員得ないと同時に精神的のみに

◎國家百年の大

計の爲め是非
解決せねばな
らぬ問題

待遇とか俸給とかの事柄は論議するも甚だ好まぬ處であるが敢て私心を満たす爲めではない。身苟も教育者の末席に列れる以上止むに止まれぬ心境の下に一言を費して見たい。

名案と確信する。

更めて言ふまでもなく教育の事業は洵に神聖である。併し乍ら神聖であるからとて神や佛の爲す業ではない。矢張り人の爲す業である。人間の仕事である。されば教育者と雖

からんことを身に希んで止まない。

教育振興策として論すべき問題多々ありと雖も凡該件の如きは蓋しその根幹中の根幹ならんか。

足柄上郡川村小學校の

校長の努力と町長の熱意

又辨てあるを、かたし生は正に膏肓は積んで山をなす病は正に膏肓に入つて居る。今にしてその根源を改めずば或は悔を干載に遺さぬとも限らぬ。されば識者は夙に之を憂へ或は國庫負擔と叫び、或は地方費支辨にと論じ決議に陳情に相當苦闘を重ねたものである。けれどもいざ具體化といふことになるや幾多の難關に逢着して容易に實現の運びとはならない。併し之ればかりは何が何でも是非とも實現せねばならぬ問題である。現在小學校

去る十三日、上郡川村尋常高等小學校衛生指定視察が、今井縣學校衛生技師、龜井縣視學臨檢の上實施された。同校は上郡唯一の大學校で尋常高等併置に女子技藝學校を合せ總學級三十、教員數三十六名。

校舍設備は普通教室三十六の外、理科、家事、手工、裁縫、唱歌、作法等の特別教室と物置にも農業、體操、家事雜具の區別あり。

特に衛生體育の方面には、これを學級毎に總括しては學級事情として毎時の衛生訓練の基礎を兒童の體力と個性の綜合的見地に置くなど賢明な着眼と稱すべきである。

其の尤も親切を極めた者にこの校の兒童給食事情がある十六名の受給兒童のため營養カロリーに留意された毎週の献立表によりて教師手づからの溫い調理が食膳にのぼさるゝのであるが、それが一般兒童の心境をいさゝかもことさらに思はせない。

經濟閑話

「米は訴ふ」

米汁と共に泥溝へ流される米粒
無難作に芥箱へやらるゝ残飯。
僕はアツビールせずには居られ
ない。

白幡 一燈

式だ、そう云ふ理未事に拘泥す
るやうでは到底立派な人間にな
れないよ」は巻かれる、何事も身
分の相違と忠告者は口を緘んでし
て話題を換へる。

近頃、米價調節とか大分〇僕に關

凡そ僕を常食とする人間に告ぐ
お前達には日に三度、熱い僕をしな
がらお前達を養つてゐる僕の厚意
を有り難いとは思はないのか。
尤も「御飯さへ頂ければ仕合せ
だ御飯を食べられない人も澤山あ
る」と云つて食べ物的小言を云ふ
其に御飯の旨さを説いて云ふ

まづが納まらぬのは僕だ。
一粒の米も疎かにす可からず之
れ百姓の辛苦勞作の汗である。
食ふは易く作るは難し。
少しは僕の取扱を心掛けることだ
米なくて如何して人は生きられ
る。

僕は唯、僕の有效價値を認識して
人間が其取扱を疎末にさへして呉
れなければ價格の高低位氣にする
僕でないのだ。
一體、僕は外の商品に較べると割
合に價格の變動は少ない筈だが、

子侯に御館の不意を告げて引退する親御もあれば、「毎日斯うやつてお飯の食べられるのも全く信心の御飯だ」と神様の爲業にして僕を有り難がつて呉れる裏長屋のおかみさんもある。

これこそ僕の苦勞甲斐も有ると云ふものだ。

然るに、世の所謂、上層に居る解つたが、

世中の辛さから減つ切り殖えた失業者の中に、之れは亦言ふことに禮を缺いて居る。

曰く「我々に職を與へよ。我々にパンを與へよ。」

パンが欲しけりや碧い眼に生れ變つて來いと云ひ度くなる。

然し結語を見て聊か頭向の迹に覺いたネ。

昭和五年一月から六月まで一石二十七圓臺の僕が八月には二十九圓五十錢近くまで昂がつたかと思ふと十月から急落だ。六年一月には十七圓八十二錢まで蹴落された。之れが恐ろしく昭和五年一月から今日までの谷底だと思ふ。

奴、此等が概して僕の氣に食はない。僕のアツピールの的は第一に此處だ。	お前達は米の飯で育つて、米の飯で大きくなつたので。それを忘れてパンを與へよとは何たる言だ。そう云ふ思知らずだから何時迄も苦勞するのだ。
金に不自由はなく、食物に贅澤な生計をしてゐるだけに僕の自尊心を傷けること位、何の罪惡とも思つてゐないらしい。會々物の解つた婢女や三太夫が	改心しなければとつと西洋へ行つて乞食にでもなれ。
	まだある。第三の「アツピール」
	六年の僕は十七圓臺から二十圓臺逍遙時代だつた。
	七年に入つてから今日まで、尤も多少の動搖は免れなかつたが概して二十圓中心だ。
	何にしても四年足らずの間によく斯うも下がつたものだ。
	農村も大分辛疲弊してゐる。爲政

「勿體ない。坊っちゃん御飯を、おこぼしになってはいけません」などと御忠告申し上げやうものなら奥様の柳眉正に逆立ちだ。「何言つてのんです。お前方は小さな事にこそくするから何時までも出世が出来ない。宅の子供に其様なことを教へないで併し僕。非常に愉快なこともある新参とか代へたらよからうだ。」この新米が僕の氣に食はない。それも「あの方は私どもの米櫃でないが」など云ふのは悪い氣持も無いが「奴、新米の癖に生意氣だ。」この新米が僕の氣に食はない。下りより以上につらいのだ。

(終)

九月二十五日所載「經濟閑話」に人組は叫ぶの題を失す 追白

古濱校訓導の迷惑

檢札車掌の功名心から

錯覺して

去る十四日各紙神奈川版に『吉濱校訓導の不正乗車』と題した記事が掲載され、御町囀にラデオまで御放送、大迷惑は學校のみではない、時節柄社會に對し信望にも關する事としてその真相をあげて其の雪冤とする。

十月十二日夜八時頃下郡吉濱村鍛冶屋五四番地杉山彬君(一九)が横須賀より平塚に赴く車中夢の中に平塚を通過し、國府津で目が醒め

遇々檢札に來た菅原車掌に平塚へ引返すのをやめて、眞鶴迄の乗越しを申告して概算を求めた所、車掌君はよく小田原、眞鶴間を定期通勤で屢々見掛けて居た教員風の男だとも誤りテツキリ定期券利用の只乗常習者なりと申告を受付けず、熱海まで同行を強いて平塚、眞鶴間五十餘錢を一圓紙幣で支拂はせ、釣錢は眞鶴下車の際受取ることにした。

杉山某は教員なんだチツとも詐稱した事實はないので鐵道省でも社會に與へた影響を恐縮して新橋運輸事務所營業主任が十八日縣大久保部長を訪ね、厚く陳謝されたといふ。

當節吉濱學校校長も森車掌監督に面詰する所あつたが教員名詐稱も古切符も全くの事實無根との答辯この報道取消を近くラデオで放送するで覺がついた。

一、墨印と朱印（續き）

あれど、しからず、朱を
見たることなし』
と記してゐる。又天保年間
に幕府によつて編纂された「
武蔵風土記」には、一切經の
條に、

『世に傳へて當所の藏本、
儒書には墨印、佛書には
朱印を押すと云ふは誤り
にて、何れも墨印なり』
と記し、尙舊蹟金澤文庫の
所で、

『鎌倉志』云「儒書には墨印
佛書には朱印を押す、印
文は楷書にて、金澤文庫
の四字を豎に書す」とあ
り、されど今残れる書籍
を見るに、儒佛二書共に
墨印にして、朱印を押せ
しものなし』

風土記の編

纂者は流石に文庫本を實物に調査した事が分る。實に卓見である。然るに何うしてこの説が一般に認められなかつたのであらう。羅山一度儒墨佛朱の説を唱ふるや、總ての學者が、一齊にその説に盲從する所は、恰も一犬虚に吠えて萬犬實を傳ふの趣がある。最近發行された「日本文學辭典」にまで、

『藏書印』は金澤文庫の四字を刻したもので、儒書には墨印、佛經には朱印を用ひたといふが（丙辰紀行）この印が前記の如く室町時代の末に既に存した證據はあるが、何時からあつたものか明かでない』

と掲げてある。現在の學者までが、この説を確信してゐるのだから、一般人が誤つた考を持つのも無理はない。

會て武田勝藏氏は大正十一年五月三田史學會發行の「史學第一卷第三號」に「藏書印殊に文庫印」といふ題名で、可なり詳しく金澤文庫印のことを書いた事がある、その中

にはならないとして、次の宋版の大藏經に朱印のあるのは何ういふ譯であらうか、自分は龔に鎌倉時代の刊鈔には、すべて墨印が捺しであると言つたに拘らず、宋時代に出版された藏經に朱印があるといふことは、前の言葉と矛盾す

『自分は朱印の方は、一度見たのみであるから、其墨印について少しく記述したいと思ふ』と述べてゐる。武田氏も幾分か之の說には疑問を起したもので、その頃盛んに文庫本

ものではあるまいか。

自分では前に述べた様に、
今日までに可なり澤山の金澤
文庫印記のある圖書を見るこ
とが出来たが、世間一般に否
有名な學者までに信じられて
その外に持出された事がある
その時に特に之が金澤文庫に
あつたといふ證據とてか、
又は何か他に理由があつて、
その新しい文庫印を捺したも
のだといふ事である。その印

なる儒墨佛朱の説は、遂に之を發見することが出来なかつたを發見することの結果では鎌倉時代に於ては、その鈔刊を鑑倉を通じて、儒佛兩典共に唯墨印だけである事を知つた現に文庫に藏されてゐる「摩訶止觀」「法華文句科文」「止観輔行傳弘決」「妙法蓮華經文その参考書にもこの朱印が捺

刊」念佛助行要文抄」涅槃經疏三德指歸」などの佛書には、何れも墨印が捺してある。又前田家現藏の「廣弘明集」東京帝國大學圖書館現藏の「法華文句科第三」涅槃經疏三德指歸卷第十五」柳瀬福市氏現藏の涅槃經疏三德指歸などに、何れも皆墨印である。換言すれば、鎌倉時代の刊鈔に一切朱印の影を見ないといふ。又岡谷氏の家譜にも、この朱印が捺してある。だから偶々宋版藏經にある朱印は鎌倉時代のもではなく、明治時代に出來た印で、この朱印が捺してあるといふ事は、一面その書物が明治三十年以後に庫外に出たものであるといふ證據になるのである。そして今尙この印の捺された二三の

ふことである。然し南北朝以後のものになると、茲に初めて朱印の影を認る。その中で一番早く捺されてゐると考へられるのが、南北朝から足利時代にかけて開放された「大般若波羅蜜多經」である。朱印としては之が代表的のもので、その外に之の印記の殘されてゐるのは世間に出てゐる宋版の大藏經と、外に「禪林類聚」や東京帝國大學圖書館現藏の「前漢藏經」が、この文庫内にも殘されてゐる。元來この藏經には何の印記もなかつたので、それが却つて災して、新しい朱印の捺される原因になつたのであらう。然らば何ういふ原因から、この儒墨佛朱の謬説が出たものかといふことを推測すると、羅山が文庫本を見た當時、庫外にあつたものは主として墨印のある外典物で、墨印のある佛書は主に庫内に秘められる

捺してあるものと斷定して、之を「丙辰紀行」に發表したものであらう。羅山の如き大學者の發表した事であり、且つ書物を内外兩部に分つことは、石上宅嗣の芸亭以來のこととて、漢學者にとつては非常に面白い事でもあり、そのまゝ

顯に至つては生れぬ前か生れたばかりの時である。

又此文の終りに『一切經も取ほごして纔殘りに今に金澤にあり』とあるが、今文庫に残つてゐる一切經の數は約三千五百卷の多きに達してゐる。羅山當時にはもつと澤山にあ

ゝ直ぐと一般から承認される様になつたものであらう、羅山が實際に金澤文庫に就て調査して居なかつたと信じられることは「丙辰紀行」の金澤文庫の次に、

つたに相違ない。それを『纔に残りて今に金澤にあり』と記して居るのだから、羅山は決して文庫の實際は見て居ないに相違ない。儒墨佛朱の説もその結果、間違つて認めら

『越後守平貞顯この所にて
れた説だと考へる。』

年◆◆◆◆女

秋本理貴作

表を見れば、成程、修二がうつむいて立つて居る。

今にも知れやうとする、罪の恐ろしさにおびえてか、それらしい様子が、あり〜と見えて居る。

修二の両手に下げられた模型飛機

頸の手拭をはづして、べこ〜と頭を下げる。

赤裸の、腰の曲つた、人のよささうなお爺さん

「や、いっますお達者で。よくおやんなしますなあ——おい〜くつで

「何は」と言つてよいのかわからないので、そんなことをとめて調子よく言つた。
お爺さんは、又も頭をべこ／＼下げながら
「何、もう駄目でさあ、人間も七十の坂を越しちや、めつきり、はまは……」
何だか、少しばかりじめ／＼した氣持が、晴れ上つて來たやうな氣がした。

行儀 奴傭、お菓子の袋などの淋しく見えぬ。
私は両親と遠く離れて、この貧しい家に暮す修二が、よけいに不憫に思へて來た。
「何、一寸ばかり……」
思はず口をついて出た。
「あなたがたうございますだ」
二人の老人は涙を流さんばかりによろこんだ。
私は、其の時、牀中が引き締つて、背筋を駈け上る、冷ツとする

「何、そんなに……」時に先生さんも、今、俺が商賣の歸り道、常設館の側を通りかゝると、彼奴看板見てるで、何、それならいゝだが、たんと、物、持つてるでねえか。私、變やと思ふて『どうしたんや』と聞いたら『先生さんにもらつただ』と言ひましたが。先生さん、あんなにたんたかに、彼奴に買つておくんなすつたか？」

一寸おかしい様だが、私は今頃になつて、はあ——と、保護會費紛失の一件を思ひ出したのです。

ものを感じた。「……」

「修坊、先生さんの御恩を、一生忘れるでねえだ、われ幸でねえかよ」

私は只眼驗まなびの熱くなるのを、どらすことも出来なかつた。

× ×

その翌の日、修二はいつになく晴々とした顔で、登校來た。

私は彼の其の顔を見ては、何とも言ひたくなかつた。

それから、三日ばかりして、彼を一室に呼んで、靜かに其の非を

秋本理貴作

頸くびの手拭をはづして、ぺこくと頭を下げる。

今にも知れやうとする、罪の恐ろしさにおびえてか、それらしい様子が、あり／＼と見えて居る。修二の両手に下げられた模型飛

私は両親と遠く離れて、この貧しい家に暮す修二が、よけいに不

「何、一寸ばかり……」
思はず口をついて出た。
「ありがたうございますだ」
（とより）
二人の老人は笑を流さずばかり

私わたしは、其の時、軀中からだの中が引き締つて、背筋せすぢを駈かけ上る、冷ツとするものを感じた。

「……」

「修坊、先生さんの御恩を、一生忘れるでねえだ、われ幸でねえかよ」

私は只眼瞼の熱くなるのを、どうすることも出来なかつた。

× ×

その翌る日、修二はいつになく

晴々とした顔で、登校來た。
私は彼の其の顔を見ては、何とも言ひたくはなかつた。
それから、三日ばかりして、彼

みはしなかつた。只彼の眞剣な懺悔が、彼の小さな心臓を傷けはしないかと、それのみ恐れた。

「修二よ、お小使がほしかつたら私にさう言ひなさい、ね……ね」

彼は只泣きじやくるだけだ。

若かつた私は、彼を抱きよせて只泣いた。

「さて」

私は意味もなく、こんなことを言ひながら、教員室の椅子から離れて、應接室へと急いだ。

けれど、此の様な事件のあつたと云ふことは、其の後、此の二人より誰も他に知る者はありませんでした。

それから、二週間ばかり晴々とした日が續いて、修二はいよいよ五年生に、相當な成績で進級しました。

私、×署の山根と申す者で……」

「は、左様です。私、學校の山本……どうぞ……」

お互は軽く頭を下げ合いました。

私は其の年も幸に持ち上りてしたので、丁度この組に三年目と言ふわけ、何だかうれしかつた（何とかして、學級の成績を擧げやう。そして、あの修二の、よき友人となつてやうと思つた）。

「どうぞおかけを」

「はあ」

何だかぎごちなくて、とりつきにくい。

私は旁の呼びリンのボタンを押して、お茶を求めて、パットをく

右手になつてやらう。これはその頃、片時も忘れ得なかつた。私の強い念願だつたのです。

四月八日——お釋迦様の日だ。道源寺の櫻は七分咲の見頃。それに、お天氣はよし、堤は非常な人出で、電車の着く毎に、人の數を増してゆきました。

丁度、第二時間目の終りのサイ

「本日お伺ひしたのは、外でもないですがあ、御校の五年生に、森修二と言ふのがお在りですな」

私はどきつとした。

「えー」

「實は、其の子供の事に就いて、一寸お伺ひしたい事がありまして……」

「はてな？」
私の教員室の窓から、顔をさし
のべて見た。
思はず笑ひ出さずには居られま
さんでした。
櫻の下、インデアン（インディアン）の假装（かそう）の一
隊が。手も、足も、顔も、全身こ
茶色で、頭には鳥の羽の装をつ
つた。
（「これや又他二か何かや」たな
私の頭は「悪」をすぐ感じた。そ
して、それからそれへと、めぐる
ましい想像の車が廻り続けた。
「あれの家庭に就いては、大體判
つとるですが……」
山根刑事が、黒のネクタイの結
び目を押へて、神經質らしく、頭
をのし出す様に左右に廻した。
「……学校の成績はどんなです
かね……」
刑事の眼はその底でぎよつと光
つた。

け、眼ははつきりと白く、唇は厚く朱色にそりかへてさへ見えた土人の一隊だ。

滅茶苦茶なダンスを、樂隊入りで、身振おかしくおどりながら、觀客様の方へ、流れるやうに行くのだ。(午後からは出かけられるな)

さう思ふと、何だか、私まで、さざわ／＼して來るやうな氣がしたので。

それから間もなく。授業も終つて、生徒達は駈けるやうにして歸てしまつた。

私は體を少し起して。「さうです。病弱で缺席が多いものですから、頭のように比べては成績の點が低いですけれど、四年の學年末では、二十五番でした。六十人の中です……」

「はあ、さうですか」

山根刑事は、何かうなづいて居るが、私はそれよりも、森修二が何をしたのか、早く知れたかつたので。

「何かあつたですか」

と、やつとのことで尋ねてみた。「――やつたです。昨日の夕刻、

きかへると、彼と出あつたわけですね……」

「は、は、そこでつたと言ふわけですね」

「まあさう言ふ處」

山根刑事事は、冷かに顔の肉だけで笑つた。

（どうしてまあそんなことをし

「それだけでですか？」
私の聲は震へて居た。
「何、それが動機となつて檢舉
たのだが、外に……」

「外にありますか？」
「外にね、お宮の賽銭箱から——
棒の先へ鳥もちをつけて、金を釣
り出した。店番の居ない菓子屋
で、銭箱をあけて、ばら銭を持ち
出した。菓子をとつた……」
私はもう聞きたくはなかつた。

彼のそれが、かう病的にまでなるには、私の責が大きいにある。彼の家庭は貧乏はして居るが相當の小使傭はくれて居たのである。

ゆるやかに「まあい」といふ私の甘さが、かうまでに彼をしたのであると思ふと、私は責任の重さに身を震るはせられた。

「……で、昨夜は留置したのだが

「私はぎよつとした。瞬間、留置場に於ける修二の淋しい、あはれな姿を聯想した。

「刑事さん！彼を私におまかせ下さい！どうぞ！お願いして下さい！」

私は夢中で哀願した。

「貴君がさうおつしやれば、おまかせ出来ないと言ふこともないですが、何しろ年少ではあるし、初犯でもあるから——而し、色々な

「私は頭をがん／＼打たれるやうな思ひだつた。『私が一生懸命でやつてみます。どうぞおまかせ下さい！』私は更に哀願をした。山根刑事は、それから何かと親切な性意をして下さつて、兎も角も今度だけは、私にまかせるのとなつた。(つゞく)」

橫濱思想係檢事

井上貫一氏講演

衡な現れが生じて來るのであります。

於ける歐洲大戰後の好況と同視してはならぬのであります。曩（大正七、八年當時）の好況は當時我國が在外資金として二十有餘億萬圓を保有して居りましたので産業界は資金が潤澤で金利は高く、勞賃も高く從て生産物も高價でありました。それにも拘はらず生産物はドン／＼海外市場で消化せられましたので對外貿易は常に受取勘定となり、總べてが積極的條件に恵まれて居りました。然るにインフレーションは前に申述べましたやうに是等の積極的條件を欠いて居るのであります。全く正反効果は今後滿二ヶ年後に發生する譯であります。それに伴ひまして國際聯盟規約による制裁を甘受せなければならぬことになるのであります。我々國民は經濟封鎖をせられることも豫め覺悟せなければなりません。又南洋委任統治の問題も考へなければならぬと思ひます。それと相前後して軍縮條約の存續、廢棄の問題も目睫の間に迫つて來て居るのであります。これは我國の國防に關する問題でありまして事重大でありますから須臾も忽諸に付せず今より之を研究して善處せねばなら

他方に於きましては勞働者農民等は生産設備及生活資料を占有せざるが爲めに資本家を地主の資本に隸屬し其の工場に驅使せられ搾取と壓迫の下に呻吟して居るやうな有様であります。この資本の獨占は有產者と無產者との溝渠を益々深からしめ對立抗爭を繁からしむるのであります。而してこの中間に位して居りますところの中小市民層はこの大資本との競争に堪へ得ずして漸次無產階級へと没落しつゝあるのであります。

そこで無產者等は之等の搾取と壓迫に堪へ得ずして、舊

界の共存共榮のために力を致さなければならぬのであります。これがフアシズム、ヒツトラリズムと異なるところであります。實に世界の危機を救ふて世界平和を齎らしめるものはこの國粹日本主義であらねばならぬのであります。我々日本國民の覺醒する時機が到來したのであります。故に其後この國粹日本主義は全國を風靡するに至りまして、今や社會主義乃至共產主義其他等々の主義は漸次その影を沒するに至つて居るのであります。

然るに其後この國粹日本主義

ぬのであります。故にそれは日本國民全體に依りて作られねばならぬのであります。不幸にして私の想像するが如く分裂抗争があるとしませうれば是等團體は茲に鑑みて互に相解消してもつて一國となり、一致協力して光輝あることに思ふのであります。

而してこの思想、このイデオロギイは必ずしも滿州事變に依つて芽生へたものではありませぬ、常に我々國民の腦裡に健在するところのものであります。それは彼の關東地

て共に溺れた人もあるの
あります。其他等々之に類す
る悲惨なる場面に於ても此の
思想、イデオロギーが期せず
して人類愛の表象として現れ
て居るのであります。彼の肉
體は減んでも其の美しい共存
共榮の精神は永へに残つて光
り輝き我等を護つて呉れて居
るのであります。又僅に一掬
の水を二三はおろか數人相分
ちて渴を醫した者があり。一
碗の飯、一握りの飯を數人相
分つて飢を凌いだ者もあり、
其他之に類似する美しい精神
のあふれたところの場面に數
知れず展開されて居つたので

の共存共榮の思想であります
他の民族には到底見られない
ところの美點であります。こ
ゝに國粹日本主義のイデオロ
ギーが胚胎して居るのであり
ます。

其後年毎に迎へらるゝこの
震災記念日には我々は玄米の
握飯に梅干澤庵を副へて食べ
てこの日を記念するやうにな
りました、そこには洵に意義
深いものがあるのであります
それはこの共存共榮の精神を
新にするが爲であるのであり
ます。然るに年を重ねると共
にこれが形式的な年中行事の
一つと考へられるやうになり

の喪失を希ふものではない。せぬ之に依りこの共存共榮の精神を呼び起せんとする念願に外ならないのであります。それは國家の危機を救ふに替へられぬからであります。我々は此の震災記念日に方り大いに之を味はひ彼等の死をし、意義あらしめねばなりません、それが彼等の靈を慰める所以であると思ふのであります。

簡單でありましたが、これで私の講演を終ります。

於ける歐洲大戰後の好況と同一視してはならぬのであります。曩（大正七、八年當時）の好況は當時我國が在外資金として二十有餘億萬圓を保有して居りましたので産業界は資金が潤澤で金利は高く、勞賃も高く從て生産物も高價でありました。それにも拘はらず生産物はドン／＼海外市場で消化せられましたので對外貿易は常に受取勘定となり、總べてが積極的條件に恵まれて居りました。然るにインフレ景氣は前に申述べましたやうに是等の積極的條件を欠いて居るのでありまして全く正反對の消極的な條件のみでありますから此の好況は決して健全なる好況であるとは申されないからであります。それで我々は此インフレ景氣が早晩行詰りの生ずることを豫想し、警戒せねばならぬのでありますと同時に是等の關係をよく考察致しましてこの經濟的危機を打開する爲めに善處せなければならぬと思ふのであります。さうするにはどうしても國家財政の堅實即ち歳入歳出の均衡を圖ることであり、識者は夙に遊資に對する累進増稅日滿經濟統制と云ふやうなことを高唱して居りますがこれは大いに味ふべきことではありますまいか。

（二）次に我國の外交は從來の消極的追隨外交を清算致しまして漸く積極的自主外交に轉向したことは我が國家、國民の爲めに洵に御同慶の至りに堪へぬ次第であります。それは我國の實力に負ふところが多いのでありますからして我々國民は今後益々この實力の涵養のために力を致さねばならぬのであります。

過般我國は國際聯盟が我國の正義の主張を容れなかつたの

ぬと思ひます。これはどうし
ても國防の充實と國力の涵養
に俟つより外はないと存じま
す。斯くの如く我國は實にこ
ゝ兩三年内外共に非常時の危
機に直面して居るのでありま
すから我々國民は此際一大決
意を必要とするのであります
然るに現時の我社會相を見
渡しまするに國民の多くは動
もすれば歐米の物質文明に禍
せられまして個人主義、利己
主義に捕はれ、私利私慾に走
り、自己のみの安逸を求めて
他人の迷惑を顧みざる有様で
ありまして、そこに國家を想
ふところの念が見出されぬや
うに思はれるのであります。
それは日々新聞紙を賑はし
て居る事實や、我々が日常見
聞するところの幾多の事實が
それを雄辯に物語つて居ると
思ひます。

之が現時の我國の思想界に
も反映して居りまして、(1)宗
教思想あり、(2)自由主義思想
あり、(3)社會主義思想等々が
ありまして之等が相錯綜、混
淆して實に混沌たる情勢にあ
るのであります。

一方に於きましては資本家
地主階級は生産設備生活資料
思想を清算し社會主義を自ら
のイデオロギーとして、資本
家、地主等の有産者に對抗す
るに至つて居るのであります
而してこのイデオロギーを奉
ずる無産者達の間に於ても黨
中黨を組み相分裂して抗争し
て居ると云ふ情勢を呈して居
るのであります。

有産者等は自由主義即ち資
本主義をイデオロギーとして
自己を擁護する團體の擴大強
化を圖り、其没落を支へて居
ります。而して是等團體の間
に於ても小黨分裂して、一致
結束を欠き、自己の主義主張
を貫徹せんが爲めに相抗争し
て居る有様であります。そこ
に私利私慾の外何物をも見出
されぬやうであります。我々
國民をしてその歸趨に迷はし
めて居るのであります。

偶々昭和六年九月十八日、
柳條溝に於ける滿鐵の爆破を
導火線と致しまして、滿洲事
變が勃發したのであります。
この轟然たる爆破の音と共に
こゝに國粹日本主義が閃光の
如く擡頭するに至つたのであ
ります。此國粹日本主義は一
君萬民、一致協力、共存共榮
を基調とするところの我國民

(尋一初期に於ける綴方)

神師附小 小島忠治

- ハシレ ハシレ (九頁) (讀本學習前)
かけつこを實施した後掛圖を中心として言語發表
○アカトシロガカケツコヲシテキルノラミ
ソナガハタラフツテオウエンシテキマス
○センセイモオウエンシテキマス。
○アカノハウガカツテキマス。
○コマデオイデ (一〇頁) (讀本學習後)
お家の赤ちゃん、亦是近所の親類の赤ちゃんについて、お名前を板書せしめ、その赤ちゃんについて發表。
コロ、オイデ、ソロソロの語を用ひて發表
○オトナリノアキラサン ハ コトシ ミツ
デス、大キナ コエデ ヨクナキマス。
○ココニフデバコガアリマス。
○センセイガオイデニナリマシタ。
○アカチャンガソロソロアルイテキマス。
○ハトコイ (一一頁) (讀本學習後)
八幡様の鳩に粟をやつて遊んで歸つた後、そのことについて合作。(視寫せしむ)
ケフハセンセイトハチマンサマニイ ツテ、
ハトニアハラヤリマシタ。
アハヲナゲルト、オヤネニキタハトハ、バ
サバサトオリテキテ ソノ アハヲタベマシ
タ。
○ウシガナク (一二頁) (讀本學習後)
キ、ウ、の音を有する語を舉げること。
キレイの語を用ひて發表。
掛圖をよく觀察せしめ次の文の鑑賞。
ソラ ハ アヲゾラ マキバ ハ アヲノ
ウシガ ナキマス モウ モウト。
○ヒバリ (一三頁) (讀本學習後)
野遊び雲雀の唱歌鑑賞後、掛圖をみつめながら童謡合作(視寫せしむ)
ハレタ オソラニ
ヒバリ ガ アガル
ビイチク ビイチク
サエズリ ナガラ
ヒバリ ガ アガル
テンマデ アガル
○カラス (一四頁) (讀本學習後)
夕方の自然をよく觀察せしめ『夕鏡小鏡』
『カラス』の唱歌をうたつた後、掛圖をみながら童謡合作(視察せしむ)
カア カア カラス ガ ナイテイク

- ニシノオソラ ヘ ナイテイク
ユフヤケゾラ ラ ナイテイク。
- ツキ (一五頁) (讀本學習前)
- 月の出てくる所を觀察せしめ、各自のみた月についての發表(何時、何處でみたか、どんなであつたか、どんな氣持か)
- ボクハ オニカイデ ツキノ出テクルノヲミマシタ、ヒトリデミマシタ。名越ノハウカラ デテキマシタ。イイ キモチデシタ。
- 2 綴方の初步指導(六月—七月)
- 讀本教材では、十六頁より四十七頁まで、こゝに至ると相當に難しい假名遣や促音拗音及び漢字が見えており、文章についてもグット變化があり、兒童の學校及び家庭生活を取扱つて標準語を示すことに努力し、所謂文法的な本格的な文章になつて來てゐる。
- 新讀本でははじめの方即ち十五頁までに文字の提出が多かつた爲めに、このへんにくると既習の文字が大部分多くなつて來てゐるので、そろそろ綴る仕事(生活の文字)化がはじめられる。だがまだオーラルコンポジション(口頭綴方)による生活發表を忘れてはならない。
- 生活發表と日記
- (タラウサン (一六頁—二〇頁) 學習後)
- キノフノコト。日曜日ノコト。について書けるものには作業とし、書けないものには口頭發表の一形態として日記の様式を教へる。
- 鑑賞
- (ヒカウキ (二一頁) 學習後)
- 受持兒童の優秀作品をプリントにして鑑賞學習。
- キノフノコト 林 哲 夫
- キノフボクガオニハデアソンデキルト、
アダマノウヘデグングントバクオンガス
ルノデウヘヲミルト大キナヒカウキガー
ダイトンデキマシタ。ミテキルウチニヨ
コスカノハウニントンディツテシマイマシ
タ。ヒカウキハハヤイナア、ボクハ大キ
クナツテ、ノツテミタイトオモヒマシ
タ。
- (この作品は前時の『キノフノコト』に得た優秀作品の一つで假名遣ひだけ正したもの)(ついで)

親燈漫語 (一)

ローマ人の饗宴

「若くは食のローマ人」と云ふ語がある。此の羅馬の作法は、今饗宴の事を説かれてゐるし、嘗ての「或る座談會」でも、ローマ人の食物について書かれた事があるやうだから、此の問題をこゝへ持つて来るのも、強ち無因縁とは云はれない。

ローマに於ける奢侈の最盛時代は、アウグスツスからネロに至る間までである。史家タチツスの明言せるところはである。食物について、最も詳細な記事を含んでゐる書物は、ペトリウス著の著「暴富家トマルキオの饗宴」を綴つたものであるが、これは稍々滑稽的のものであるから、悉く信用を置くことは出来ない。

ローマ人の饗宴について、普通引用せられるのは、皇帝ギテルス（？）の事だ、彼は日に四回、あらゆる饗宴を極めた食事をした。彼の兄弟が、彼を饗宴した時は、二千尾の魚と、七千羽の鳥とが、食卓を飾つたと云ふはなしと、もう一つはメテルラ夫人が、耳に懸けてゐた眞珠を葡萄酒に溶解せしめ、六千羽の鳥、殊に鶩を一時に多く焼かしめ、其の費用のみでも、數萬を算したと云はれる話である。

古代のローマ人は、好んで人に御馳走をしたものであるが、フルタキが云つてゐるやうに、其の人数は、美神の數より多いことはあまりなく、多くても、二十人とか、三十七人位であつた。

先づローマ人は招待状に對して非常に苦心する。故に、ローマ人の招待状中の傑作は、今も、古代文學の一要素として残つてゐるのだ。

招待された側では、今と異つて別に友人を道連れにしてもいい事になつてゐる。この道づれの友人を當時は「影」と稱へて、ローマ人は、此の「影」の爲めに饗宴することを喜んでゐた。

ローマでは、婦人を招待しなかつたから、現代歐洲の饗宴とは、趣が違つてゐる。

饗宴のある前日は、主人が主となつて、宴會係りの執事や、奴僕に對して、必要な命令をして置き、當日は、早朝から、奴隷どもを使役して、例の豪華な大掛りな食事を用意をさせる。

當時は、まだテーブルクロスが無かつたから、食品類は、すべてテーブルに直接に置いてあつた。

ローマ人は、入浴を日課としてゐたから、主人も客も、各々其の家に於いて、午後二時から四時までの間に入浴し、四時ともなればいよいよ客となつて、招かれた家に行き、主人は喜んで饗宴を開くのである。

客一人について、アレキサンダー生れの美少年の奴隷が一人づゝゑ従する。

食堂は、夏は緑蔭の奥庭の涼卓、冬は南向きの暖い室である。

此の室の壁には高價な、垂れ額があり、花環があり、燭臺があり、大理石の大床には青銅又は大理石の立派な食卓があり、其の上には白金の盃が置いてある。

客は、豪華な、而も洒落た服を穿し、輕い草履を穿いて、此の室に入り、互に挨拶して、各自の席に横はるのである（即ち饗宴の事をさすのであるから、いかなる廣大な食堂でも、多くの客を容れ得ないのは無理もない）。獨逸產の鷄毛を入れた深紅の絹布の蒲團の上の寝心地のよき、給仕人が來て手と足を洗つてくれる。

食卓の神祕がすむと、顔の前にある圓形、又は四角形の食卓の上から、熱い燭をかけた一杯の火酒を給仕がついてきて、客は第一にこれを飲む。さうすると、入浴の効果が顯れて、いよいよ、心持になる。スプーンは用ひない。

饗宴は三部に分れ、第二の中間食が主食となつてゐる。

此の食卓の間に、客は、丁度、日本のお姫さん式に幾度も着がへをする。中には十度もかへた人があつたさうだ。

主人側でも、盛に香油や薫香を使つて、ランプの悪臭を消してゐる。

第一部と第二部の食事の間に、中休みを行ひ、此の時、雪や氷で冷たした葡萄酒や、カンパニヤの葡萄酒を飲み、第二部と第三部の間の間は、談話を交し、詩歌を朗誦する。

大富豪達は、どの食品も、自家用の、自家の所有地から産出せしめることを名譽としてゐた。無論、料理人には、高い俸給を拂つて、天下の名人を雇ふことに腐心してゐたのである。砂糖が無い時

作法

招待と應招

日本食と其の饗應

●二汁五菜（つゞき）

●受饗（食物のいたゞきかた）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

●三方向（さむらい）

代として、甘味には、蜜をつかつたのであるが、肉類を焼くには、別に油をつかはず、肉それ自身の脂を利用した。

ローマ時代には、細かく切つた食物を、右手の指で摘んで食つたのだから、ナイフやフォークの無いことは分つてゐるが、スプーンは、稀には用ひたらしい。

汚れた指を、如何して處分してゐたか云へば、銀製の籠に豊富に盛つてある麵包をちぎつて、これを拭き、其の屑は、床に投げ、給仕がそれを收拾した。

今のテーブルスピッチのやうなものは無かつたが、例の中休みの中に、主人自作の詩の朗誦があつた。

紅樓夢と源氏物語

西遊記を見てゐると、カール・ライプの、英雄崇拜論中のオーゲイ・クレスを思ひ合はす。

支那、清朝時代の小説の作風を代表してゐる「紅樓夢」が我が源氏物語に似てゐるの面白。

源氏が、紫式部の作だ。いや、紫式部と、其の父爲時の合作だ。いや、あれは、紫式部と、其の女大貳三位の合作だ。諸説ある。と云ふ。紅樓夢も曹雪芹と、曹雪芹と其の親友……曹雪芹と其の子……等々いろいろに云はれてゐる。

源氏が、色即是空、空即是色の天臺趣味を述べてゐる如く、紅樓夢も同じく、そこをねらつてゐる。

篇中の主人公、賈寶玉は、光源氏そのまゝの美男の貴公子、寶玉が最も傾倒した美姫、林黛玉は源氏の……

鎌倉師範學校

野球部後援會生る

發起人四十三名

同後援會の趣意と會則は左の如し、同志の輩は奮つて加へ、奮つて御賛同アランコトヲ。

其の趣意に曰く

以上（略）ハ昨春文部省ノ發シタル野球統制案ノ冒頭ニ掲ゲラレタル施行ノ關スル一節ニテアル。以テ文部當局ノ野球技ヲ見ル如何ニ重キカヲ知ルヲ得ルヲ思フ。爾レテ國內一般ヲ見ルトキ會テノアメリカノ國技ハ今ヤ我が國技ト化シテ居ル。是單ニ國民ノ新奇ヲ好ム結果ト誰人ガ否定シテラレザラウ。

而シテ其ノ野球ヲ縣下ニ於テ、否寧ろ全國ニ於テ最モ奮クヨリ行ヒ、長キ歴史ト傳統ト誇リト有スル母校鎌倉師範野球部ハ苦節十幾年捲土重來、昨秋縣下ノ制覇成リ今ヤ將ニ黃金時代再現ノ緒ニ着カントス。コノ秋突如學級減ノ厄ニ逢ヒ、部員ノ減少ト經費ノ不足ヲ來シ、誠ニ野球部ノ非常時ヲ思ハシムルヲ觀、憂苦ニ堪ヘズ、同窓生中ノ好球家ト野球部員タリシ人々相携ヘ相謀リ以テ野球部後援會ノ設立ヲ企圖シ、汎ク縣下ニ涉リ部員ヲ募集セントス。

都鄙ヲ問ハズ、グラウンドニ球ヲ握リ、バツトヲ執ルト否トニ關セズ、苟シクモ紙上ニ於ケル球界ノ消息ノ一片ニ

テニスに倣ひ敗れた敗軍の將村山助役と永田電局長の麾下にのりしや天狗連十六名の挑戦、此方は同じく大將軍の横山知事、副將の大久保部長の勢揃ひ、十三日夜開港記念開館で試合開始、そこで敵將村山さんと高松全藥劑長とを屠つた大久保部長の奮戦も、あつたら阪井田區長にやられて二勝一敗とある、口惜しかつたのは市側、今度は基の手で敵打ちでもやるかナリ、この日大久保部長の持點三十、技術の眞價は四十位と云ふ。

○十月十七日

縣下中等學校女子部體育大會、平塚高等女學校に今日の盛況、幼い愛嬌を召されての部長さんの來観、傍への來賓思出のまゝ、「男子部の時はお坊ちゃん同伴でしたな」

もとより子煩悩の大久保部長、嬢さんの頭を撫で、片頬に笑を湛えて「これは女子部の方でしてねえ、」仰げばなごやかに澄み渡る秋晴れの空にくっきりと立つ秀麗の富士の姿も亦いと清げに朗かである。

學務ニュース

十月十二日

學務課屬望月君、陸軍歩兵曹長

の宅、夜は未だ浅い十時頃泥公

が訪問した。

御叮嚀に裏口のガラス戸を焼切

り、雨戸を二三寸開け、そこから

奥さんだ、さきからの異様の物音

に『泥棒です！』と報告、

曹長殿、この野郎と起き上りさ

ま、『コラッ！』

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納

まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲

よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎

高等裁縫女學校で『皇朝書道と國

民精神』と云ふ演題の下に長講一

席、なにはさては課内きつてのユ

モリストだけ今日も、と苟且も

國體と國民精神とかに及ばず、

生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬

飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣下對抗球試合。

何でも勝負なしには腹の虫が納まらないが縣と市の高官連、だ

が昔の睚眦合とは事かはり今は仲よしの試合ゴッソ、最近マンマ

○十月十七日

この日川島桂山先生には、川崎高等裁縫女學校で『皇朝書道と國民精神』と云ふ演題の下に長講一席、なにはさては課内きつてのユモリストだけ今日も、と苟且も國體と國民精神とかに及ばず、生眞面目に深刻化して寧ろ崇敬をおびり、熱と油とにとけてきた舌鋒鋭く持前のユーモアをおつ飛ばして

「口紅をケバ／＼しく塗るたつた女は鬼ババのやうで御座るの、洋装は、チャ／＼と腰巻をつぎ足したやうなもので御座るの、さては河馬がケツを振り廻すやうだ、と、締語警句の連發。さてこの國粹子の國粹講話に、満場の若い女性感激の涙を流したとか、流さないとか……」

○十月十三日

○縣

一、本堂並山内都而取散寸間敷事



武相俳壇

太真堂滄洲宗匠撰

秀逸

風さわぐ曇つゞきや天の川
銀漢や九時をうちたる百姓家
桔梗の露の缺けゆくあしたかな
しつとりと虫の音もなし露の原
草刈れば利鎌を走る白露哉
萩に置く色とり／＼や玉の露
大露やいたく傾くむかご垣
笹の露落ちてはつくる水輪哉
横たわる銀河動くや一人旅
灯して飛行機過ぎぬ天の川

五容

朝附日蜘蛛の巢に照る白露かな
蟬のあけたる斧も露まみれ
天の川残して月は入りけり
白露や日の走り来る玉芒
古城趾の松一本や天の川

三光

露ふかし足に貼りつく穂草の實
きら／＼と露赤く又青く又
消えて行く島の灯や天の川

資課題

菊、（ハゼ）通シテ十句以内
（締切期日に遅れぬ様御願）

我が俳道（其二）

翁が「青くてもあるべきも
のを唐辛」道の邊の木樺は馬
に食はれけり」物云へば唇寒
し秋の風」の句など此種に属
する句である。又特に西洋文
化の侵入以來我利々即利己
主義俗をなして人は只眼
前の利益に顧みず國家人
道の大事に薄く小人物即俗
な人物の跳梁跋扈となり居る
現代に對しては吾人は雄大な
句調を賞揚鼓吹して各人各
業務に於て雄大な考の下に
活動して貴ひ度事を切望する
ものである。勿論只に天下を
取つて遠大なる徹底的なる政
治を行ふ事のみが雄大とは思
つて居ない。大事にも貧弱が
らんと熱中するのは不可であ

ると云ふのであるが、吾人此
の說には共鳴する者である。
我宗家太真堂は初代以來四民
の上位にあつた武士により代
々相續されて來たので、他の
俳家のやうに階級の眞似事し
て權勢や富貴に媚びる事は毫
も無いのみならず前述の點に
も留意し決して高い賞品など
出した事はないのは勿論家元
から出す散紙には只呈景との
みとしてある。此點は極く些
細な事であるが實は重大
なる事であつて桃家俳風の一

學校栽培菊花
大品評會即賣會

學校經濟實行會主催

學校栽培菊花大品評會は例年の如く、來る廿九、卅
の兩日横濱市中區吉田小學校内に開催、一般の縦覽
に供し即賣する。今年の出品数は横濱、都筑、鎌倉の
三十餘校、大小六百種で會場は芳醇の香高く頗る美觀
を呈する事であらう

朝顔の種子は御座いま
せんか

あれば買上げます

取つぎは經濟化實行會

各學校や御家庭で、朝顔の種子の残物があれば一升
金五拾錢の割で買上げますから、學校經濟化實行會事
務所（縣廳學務課内）に申込み下さい
同會で需用先への取繼を致すのであります

端を覗ふ事が出来るのであ
る。此の床屋發句を攻撃して
居る人々の中に立派な賞品な
ど書き並べて居るのはどうし
た事か苦々敷事である。吾人
が強調する徹底的雄大な句
調に共鳴同化する事は枝葉に
迎合する床屋發句とは其目的
である。以上は我桃家俳道の
一面であつて次の四大抱負に
向つて邁進しつゝあるのだ
（一）桃家風流の骨髓（大
薦めする。太真以下次郎）

二藩學

小田原藩、荻野藩山中藩、及六浦藩には夫々其藩
の子女を教育するための藩立學館があつた。次にそ
れ等の沿革一通を述べて見やうと思ふ。

小田原に於ける諸藩古所は集成館と稱し、文政五
年藩主大久保加賀守忠直が創設したところである。
忠直は夙に時勢を察し、藩士の修養に慮るところあ
り、即ち元費を省き、餘剩を積み、更に手元金千圓
を出して資金に充て、其利子と藩費とを合せ茲に學
館の設立を遂げたといはれる。安政二年西洋の兵法
を取り入れて新に兵學科を加へ、教練を課し、舊來
の面目を改めた。維新の翌年明治己巳の七月文武館
と改稱、同時に職名を改正して新進を拔擢し、且つ
文武總裁及び督學を置き、更に英語科を加ふるなど
大に改革の實を擧げた。同四年廢藩置縣の後も依然
として經營を續けたが、官費學校廢止令により、遂
に閉鎖の止むなきに至つた。

これを見て時の足柄縣長官柏木忠俊は、舊小田原
藩士子女教育の途が杜絶するを憂へ、即 舊藩主及
其他篤志者に圖りて資金を集め、且つ文部、陸軍、
大藏三省に稟請し、資金並に圖書參考品等の下附を
受け、計畫が熟したので、同五年七月小田原十字町
四丁目大久保舊藩主の邸内に一校を起立し、これを
共同學舎と名づけ、中學科及び小學科を設置した。
然るに間もなく學制の頒布があり、士民は普通小學
資金の賦課を負ふことゝなつた。そこでこの上に中學
維持の資金を負担することは其力に堪へぬといふこ
とになり、七年十一月終に廢止の運命に達した。
右共同學舎の設置と同時に、小田原幸町一丁目舊
城二ノ丸内にも日新館なる一校の設立を見たが、同
五年十月不幸にして類焼の厄に罹つたので、大藏省
に請ひ舊文武館の原資金一萬七百餘圓の下附を受け
これに依て同館の小學部を再興することを得た。次

三 外國語學の傳習

安政六年六月二日横濱の開港と共に邦人の第一に
必要を感じたことは、外國語の習得であつた。この
當面の必要に應じて、まづ開けたのが英學校である
英學校は一に英學所とも呼ばれ、文久二年十月幕
府が横濱在留の官吏の子弟を教養する目的を以て運
上所（當時の税關）前の官舎（今の中區山下町一七
一番の邊）に設置した所で、教師には米國人神學博
士ブラウン、神奈川奉行手附翻譯方石橋助十郎、太
田源三郎等を擧げた。慶應二年二月神奈川奉行支配
定役の役宅に移轉、其年十月二十日有名なる豚屋火
事に類焼し一旦休校となつたが、間もなく再興した
次で幕府の瓦解により慶應四年（明治元年）廢校に
歸した。

右ブラウンは新東洋の建設者となへ謳はれる人で
我横濱に遺した事蹟は頗る多いのであるから、この
機會に彼の小傳を少し語つて見やうと思ふ。
ブラウン正しくはサミュエル・ロビンソン・ブラウ
ンと云ひ、米國の神學博士である。西曆一八一〇
年六月十六日北米合衆國コンネチカット州のイー
スト・ウィンゾーに生れた。天資聰明で寛容温厚
の性格を具へ、一八三二年にイエール大學を卒へ
續いてユニオン神學校を出で、アメリカン・フリ
ーフォームド・ミッションの外國傳導局派遣の宣
教師となり、前後二回支那に渡つて傳導及び教育
に従事した。

彼が本邦に渡來したのは安政六年即ち横濱開港
の年で其十一月三日（或は一日ともいふ）神奈川に
上陸した。